

新潟市急患診療センターだより

第3号 2017年 1月



第3号にあたって

新年明けましておめでとうございます。本年が災害がなく、市民のみなさまが健康で過ごされることをスタッフ一同祈念しています。寒い時期には、インフルエンザをはじめとした感染症、急性心筋梗塞や脳血管障害なども起きやすいので、体調管理には十分注意して下さい。また、ストーブなどでの火傷や雪道での転倒にも気を付けて下さい。最終ページには、診療時間、交通アクセスなどが掲載されています。

病気の知識

熱性けいれん（小児）

- ・生後6カ月から5歳ごろまで、とくに1歳代の小児で、38℃以上の発熱時に起きるけいれん発作（ひきつけ）です。
- ・子どもの7～8%がかかる病気で、それほど珍しい病気ではありません。
- ・急激に熱が上がる時に起こりやすいです。
- ・“ひきつけ”の多くは発熱後24時間以内に起こり、5分以内に治まることが多く、10分を超えることは少ないです。



【けいれんが起きたら】

- ・あわてないでください！（命に関わることはまずありません。）
- ・安静にしてください！（窒息の危険があるので口の中にもものを入れないでください。ひきつけが長引くおそれがあるので、あわてて抱き上げたり、揺すったり、大声で呼ばないでください。）
- ・呼吸がしやすいように横に寝かせ、吐物を気道に詰まらせないように注意しましょう！（吐きそうになったら、体を横に向けましょう。）
- ・その場を離れないでよく観察しましょう！（“ひきつけ”の起きた時刻と持続時間は？“ひきつけ”はどんな様子だった？熱は？）

通常時間に病院へ



- ・熱性けいれんの既往がある患児で、今回も典型的な熱性けいれんの症状で、けいれんも短時間に終わり、意識障害等がない場合は、一晩様子観察した上で翌日にかかりつけ医を受診しましょう。

急患センター等へ



- ・初めての熱性けいれん
- ・熱がないのにけいれんを起こした時
- ・体の片側だけひきつけた時

救急車を

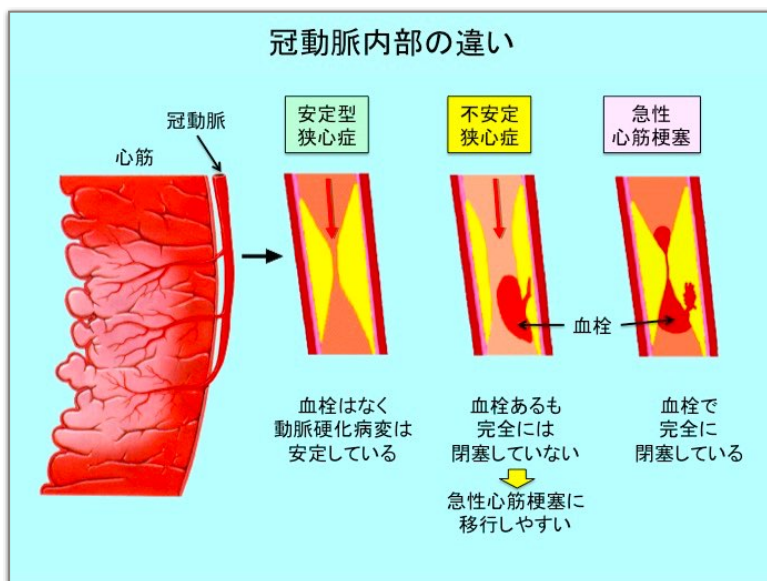


- ・けいれんが10分以上続く時
- ・けいれんが断続的に続く時
- ・けいれんが治まってしばらくたっても意識が戻らない時
- ・けいれんが治まっても、呼びかけや痛みに対する反応が弱く、様子がおかしい時
- ・けいれんが治まった後に、麻痺の出現や体の動きがおかしい時
- ・けいれんと共に嘔吐を繰り返す時

急性心筋梗塞

【急性心筋梗塞とは】

- 急性心筋梗塞は、心臓を養う血管（冠動脈）が血の塊（血栓）により完全に詰まることにより突然発症します（図）。
- 急性心筋梗塞は前触れもなく突然発症することもあります。狭心症（不安定狭心症）から移行することもあり予知は困難です。
- 最近の医学の進歩で急性心筋梗塞の死亡率は減少していますが、医療機関受診前に突然死することもあり、病院に搬送されても死亡率が5から10%程度とあなごれません。
- 冠動脈が完全に詰まると徐々に心臓の筋肉組織の死（“え死”）が始まります。これが心筋梗塞です。
- 心臓の筋肉組織の“え死”は、6から24時間後には完成し、死に至らなくても心不全やショックを合併することもあります。

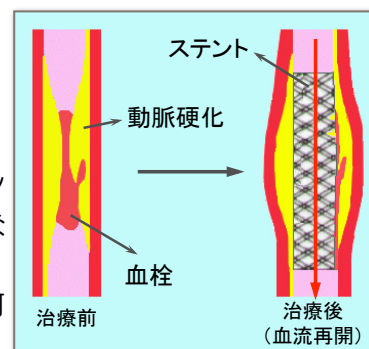


【症状】

- 急性心筋梗塞は多くの場合、胸部の激痛、締めつけられる感じ、圧迫感として発症します。
- 胸痛は30分以上持続し冷や汗を伴うことが多く、重症ではショックになります。胸痛の部位は前胸部に多くみられますが、下あご、首、左上腕、みぞおち（胃の病気と間違ふ）、背中に現れることもあるので注意が必要です。
- 息苦しさ、意識障害、吐き気、冷や汗を伴う時は重症のことが多いとされています。
- 高齢者では特徴的な胸痛でなく、息切れ、吐き気などの消化器症状で発症することもあります。
- また、糖尿病の患者さんや高齢者では無痛性のこともあります。
- 狭心症の患者さんで、症状の程度がいつもより強くなったり、回数が頻回になったり、軽い労作で誘発されるようになった場合には、急性心筋梗塞に移行する可能性があるため、ただちに専門医を受診するのが安全でしょう。

【冠動脈インターベンション治療】

- できるだけすやかに詰まった冠動脈を再開通させる必要があります。
- 再開通させる治療には、冠動脈インターベンションといわれる、バルーン（風船）による拡張術やステント（拡張することができる網目状の小さな金属製の筒：右図）を入れる方法があります。
- 発症6時間以内であれば、治療により心筋“え死”を少なくすることが可能とされていますので、できるだけ早く救急車を呼ぶことが大切です。



急患センター等へ



- 軽い胸痛、時々みられる胸痛、動悸、息切れなどで心臓病が心配な場合。
- 急性心筋梗塞かどうかは心電図検査でほぼ診断できます。万一、急性心筋梗塞の場合は、循環器治療の可能な病院に転送します。



次のような場合は、日中であっても救急車を呼んで下さい。

- かつて経験したことのない胸部や背部の突然の激痛が続く場合、胸が強く締めつけられる感じや圧迫感などが30分以上続く場合。
- 狭心症治療中であるが、いつもと違って発作止めの薬（ニトロ舌下）でも30分以上発作が続く場合。
- 短時間でも意識が消失した場合

うつさない、もらわない 受診の仕方

急患診療センターはたくさんの方々にご利用いただいております。お互

いに病気をうつさない気遣いやもらわないように注意することが大切になります。下記の症状がある方は参考にしてください。

【咳・発熱】冬季間になりますとインフルエンザの患者さんが多数受診します。咳がある場合は必ずマスクをして受診をしましょう。インフルエンザ流行期には違う病気で受診する場合でもマスクをして受診した方がよいでしょう。

【発疹】感染症の疑いがあります。他の患者さんと離れて待機した方がよい場合もありますので、診察前にどのような発疹か確認させていただきます。中には「はしか」など感染力の強いものもありますので前もって電話で相談してください。

【吐き気】感染症の疑いもあります。吐物をまき散らさないことが大切です。吐物入れの袋がテレビ下に準備されていますのでご利用ください。吐物を廃棄したい時は職員に声をかけてください。

*治療が終了し家に帰ったら必ず、うがいと手洗いをしましょう。

Q & A （質問に答えて）

Q1：急患診療センターでの医療費の支払いが、かかりつけの医療機関よりかなり高いのはなぜですか？

A1：一般のクリニックが休診の夜間、休日又は深夜に診療を行う急患診療センターを運営することは容易ではありません。特に、医師、看護師などの職員の確保に苦慮しています。

救急医療を確保するために、地域のクリニックの医師、病院勤務医が連携・協力して何とか体制を維持しているのが現状です。国はそのための費用の補助として、地域連携夜間・休日診療料という診療報酬を認めているために費用が増えます。その他に、受診する時刻により費用が加算され割増になります（時間外加算、休日加算、深夜加算）。

例えば、インフルエンザで、ウイルス検査を行い、薬が処方された場合は、受診時刻で異なりますが、大人（保険証持参、3割負担）で4,000～5,000円以上になります（保険証を忘れた場合は13,500～17,500円以上、保険証持参により後日新潟市医師会で精算ができます）。

可能であれば、費用が安い平日日中の医療機関受診をお勧めします。

Q2：風邪で受診し、点滴や抗生物質（抗菌薬）を希望したのですが必要でないといわれました。なぜですか？

A2：治療については、問診、症状、診察や検査結果などから医師が総合的に判断しますので、以前点滴を受けたからといって、次も必要になるとは限りません。

一般的に、風邪で点滴が必要なのは、食事・水分をほとんど摂れない場合、強い嘔吐・下痢により脱水所見がある場合などです。点滴をしても早く治るわけではないので、初期の場合や経口的に水分が摂れる場合は点滴をしません。しかし、症状が長く続く場合や悪化する場合は後で必要になることもありますので、医療機関を再受診して診察を受けてください。

抗生物質（抗菌薬）は細菌感染には効果がありますが、風邪の多くはウイルスが原因なので効果がありません。ただし、インフルエンザウイルスには発症から48時間以内であればタミフルやリレンザといった抗ウイルス薬が処方されます。

風邪などに不適切に抗生物質（抗菌薬）が使われると、薬に効く菌（感受性菌）だけが殺され、薬が効かない菌（耐性菌）は生き残って増殖を続けます。また、腸内の善玉菌（健康の維持に必要な細菌）も殺してしまうので、下痢を起こしたり、免疫力などに悪影響を及ぼします。近年、耐性菌が増え、本当に必要な時に薬が効かず大きな問題になっています。溶連菌感染や二次的な細菌感染では抗生物質（抗菌薬）が必要になりますので、治るまできちんと医療機関を受診してください。



診療時間

★土曜日午後3時～10時の「整形外科」は在宅当番医となります。（在宅当番医は毎回替わりますが、新潟日報土曜日朝刊の紙面、ホームページでは「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜(★)	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

これから一番寒い時期になり、しばらく続きます。雪道での転倒や交通事故に注意し、風邪などひかないよう、お元気でお過ごし下さい。

新潟市急患診療センター

ホームページ <http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会による救急疾患検索サイト

<http://www.niigata-er.org/search/>

発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914新潟市中央区紫竹山
3丁目3番11号

TEL 025-246-1199